

学生が宮島観光客の喫煙に対する意識調査を実施

～平成28年度廿日市市地域戦略協働プロジェクト報告～

廿日市市との平成28年度地域戦略協働プロジェクトにおいて、「宮島口及び宮島地域における歩行喫煙等の実態調査とその防止対策の検討について（代表者：経営情報学部 経営学科 村上恵子准教授）」を実施している。このプロジェクトにおいて、11月25日と12月16日の2日間にわたり、経営情報学部4年生と大学院生が観光客の宮島島内での喫煙に対する意識調査を実施した。

調査では、アジア・欧米諸国からの観光客65名を含む577名の観光客に宮島島内での喫煙のあり方について話を聞くとともに、喫煙者には宮島島内での喫煙に対する問題点と要望について回答していただいた。その結果、宮島島内全面禁煙が望ましいと考える観光客は53.0%、分煙が望ましいと考える観光客は45.1%、ルールは必要ないと考える観光客は1.9%であることが明らかとなった。また、喫煙者からは、「観光地は吸えないところも増えているので島内全面禁煙でもいい」、「世界遺産の島だから吸えなくても仕方がない」といった声があった一方で、「喫煙場所の案内が欲しい」、「タバコが吸えるお店が知りたい」といった意見も聞かれた。

現在は、宮島島内の事業所を対象にした喫煙状況調査も進めており、今後は、これらのデータをもとに、宮島島内での喫煙対策について検討する予定である。調査にご協力下さった観光客の皆さま、事業所の皆さまにはこの場を借りて深くお礼申し上げます。



観光客から話を聞く本学学生(1)



観光客から話を聞く本学学生(1)